

2010

しきしま ♥ ときめきプラン



敷島自治区

2010/03/07

も く じ

はじめに	01
1 ときめきプランってなに	02
2 しきしまはどんなところ	03
3 しきしまの自慢と困りごと	06
4 しきしまの将来像	07
5 プランの体系と主な取組み	08
6 分野別計画	09
1 里づくり	09
2 産業振興	10
3 環境保全	11
4 健康福祉	12
5 教育文化	13
6 農村整備	14
7 安全安心	15
7 重点プロジェクト	16
8 プランの推進に向けて	19
【資料 編】	20

- 敷島自治区基礎データ
- 日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト
- 魅力ある地域づくりの会
- 公開討論会発言要旨
- ときめきプランへの意見
- 新聞記事スクラップ



は じ め に



国指定天然記念物 貞観杉

豊かな自然と山里の美しい景観、温かい人のきずなは、私たちしきしまに暮らす住民の宝であり、ここをふるさととする人々の心の支えとなっています。これらは、たまたまそこにあるものではなく、私たちの親や先輩が時代を越えて引き継いできたものです。今を生きる私たちには、このしきしまの宝を、子や孫に、そして、後世に引き継いでいく責任があります。

しかし、工業化社会への変貌、農山村の過疎化、高齢化の進行で、それが容易なことではなくなってきている現実には私たちは直面しています。

今、私たちにできることは何か。「しきしま ときめきプラン2010」は、私たち自らが話し合い、自主的に策定した自治区活動のみちしるべです。

もはや、行政に依存し、一部の役員に依存してしきしまの宝を守ることはできません。ここをふるさととする人々の力も借りながら、お年寄りから子どもまで、それぞれができることを、みんなで楽しみながら、そして、未来にときめきを感じながら取り組むこと。それが「しきしま ときめきプラン2010」です。

『豊かな自然 温かい地域のきずなを守り 人々が生き生き暮らす山里 しきしま』の実現に向けて、歩きはじめましょう 今から。

平成22年3月

敷島自治区未来計画策定プロジェクトチーム

敷島自治区長 近藤 正臣
鈴木 辰吉（押井町） 安藤 米治（榊野町）
林 行宏（加塩町） 近藤美喜子（東萩平町）
安藤三千代（榊野町） 築井 友美（明賀町）
中垣 幸久（榊野町） 後藤 善弘（東萩平町）
沓名 雄司（杉本町） 高山甚八朗（太田町）
安藤 恒仁（太田町）

1 ときめきプランってなに

プラン策定の背景

しきしまの未来のために、今、私たちがすべきことの道しるべをつくる必要があります

- ① 過疎化、高齢化が進んで地域の活力が低下しつつあり、将来の暮らしが心配されます
- ② 「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」や森づくりなどで、しきしまが注目を集めています
- ③ 「敷島の里づくり計画」（平成17年度）が策定されてから間もなく5年が経過しようとしています

プラン策定の目的

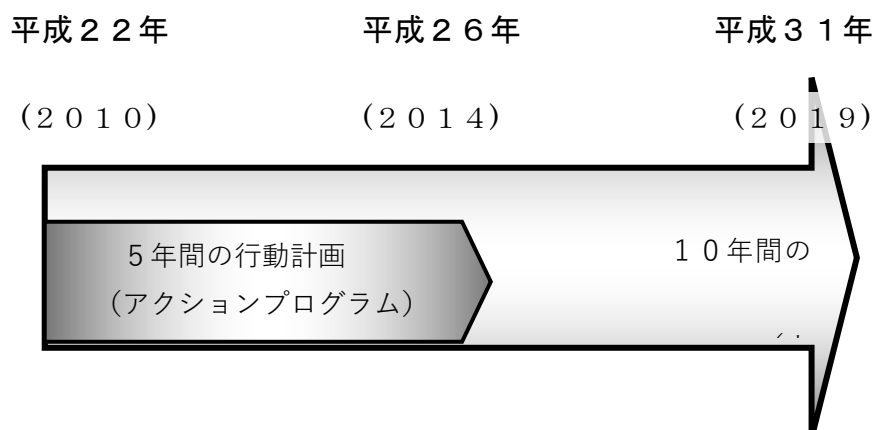
めざす地域の将来像をみんなが共有し、効果的にまちづくりを進めるためのプラン（＝計画）を策定します

- ① 分野ごとの取組み方針を定め、関連のある分野は協力しながら、より効果的に計画を進めます
- ② 必ず実現したい取組み（重点プロジェクト）を定め、他に優先して強力に進めます

プランの構成

長期構想／「まちづくりビジョン」として、10年後の地域の姿、目標を定めます（平成22年から平成31年）

行動計画／「アクションプラン」として、5年間で取り組む活動と目標を定めます。（平成22年から平成26年）
また、重点的に取り組むプロジェクトを定めます



2 しきしまはどんなところ

しきしまの地勢

夏冷涼、冬温暖で旭地域の中では道路の利便も良い地区です

- ① 県の中央北部、愛知高原国定公園の西端にあり、標高は180m～530mです
- ② 平均気温12℃、降水量は1700mmで、夏冷涼・冬温暖の比較的穏やかな気候です
- ③ 区域面積21.7km²の8割は森林で、6本の清流が矢作川に注いでいます
- ④ 杉本町の貞観杉、押井町の磨崖仏など一級の文化財のほか、良質の硫黄泉の湧出も見られます
- ⑤ 都心までは30km、旭地域の中では、国・県道の利便が高い地区です

上位・関連計画でのしきしまの位置付け

上位計画では「都市と農山村の共生」を実現する場としています

国・愛知県の計画

- ① 国の「中部圏広域地方計画」（H21～30）で、農林業の振興やグリーンツーリズム（農業体験などの観光）などによる活性化プロジェクトが定められています
- ② 県の「あいち山村振興ビジョン」（H18～27）で、農林業を核とした6次産業（生産から加工、販売まで一貫して行う産業）、観光資源、特産品の開発支援、森林整備の推進などが定められています
- ③ 県の「山村振興計画」（H19～26）で、当地は、「振興山村」に指定され、産業基盤、生活環境の整備が重点的に行われる地域になっています

豊田市の計画

- ① 「豊田市過疎地域自立促進計画」(H17～21)で、当地は「過疎地域」(人口が長期間にわたって減少した地域)に指定されており、社会基盤整備などに特別の支援を受けています
※平成22年4月以降も、旭、稲武、足助、小原地域は、過疎地域として特別の支援が受けられることになりました
- ② 「第7次豊田市総合計画」(H20～29)で、当地は「森林環境共生ゾーン」に位置し、重点テーマ「都市と農山村の共生」を実現する場となります
- ③ 重点戦略「水と緑の環境共生都市の形成」に向け、「水環境の再生・保全」、「森林環境の保全・活用」、「農地の保全・活用」などの施策が進められます
- ④ 重点戦略「農山村地域の再生・活性化」に向け、「地域資源を活用した交流促進」、「多様な居住形態の創出」などの施策が進められます

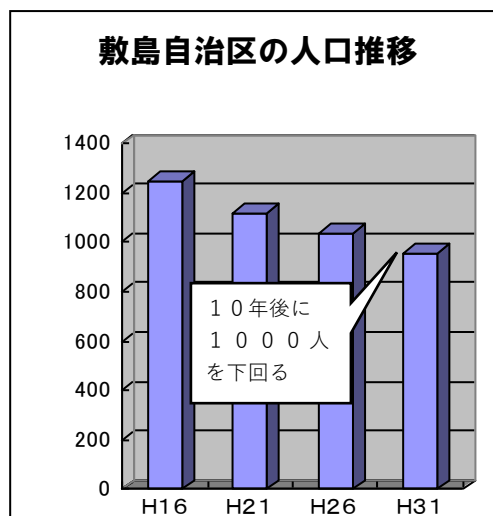
第7次豊田市総合計画ゾーン別計画



統計・アンケート
などの分析

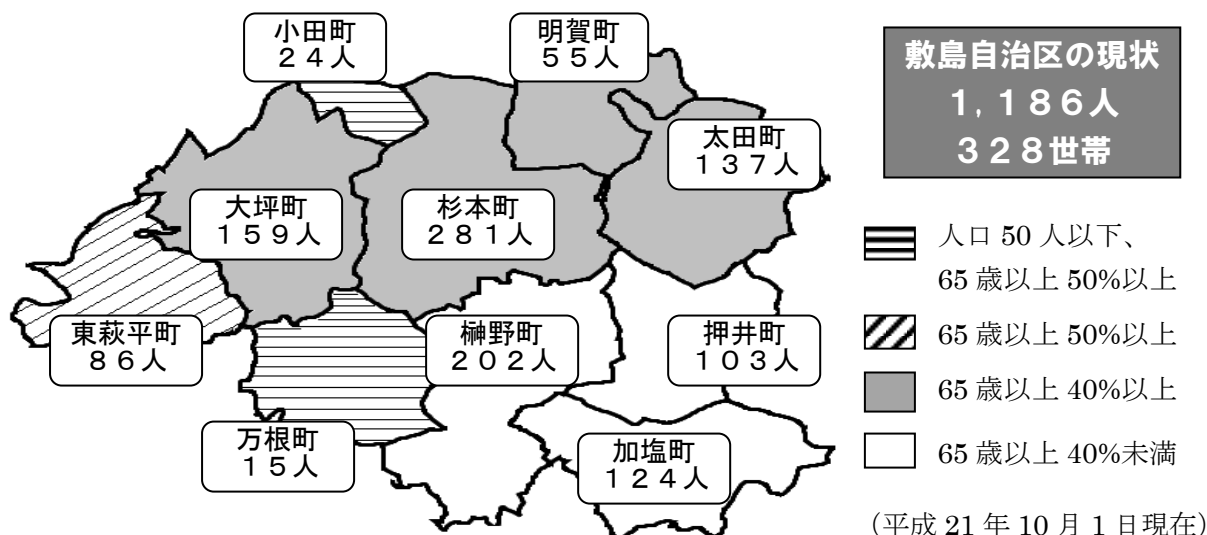
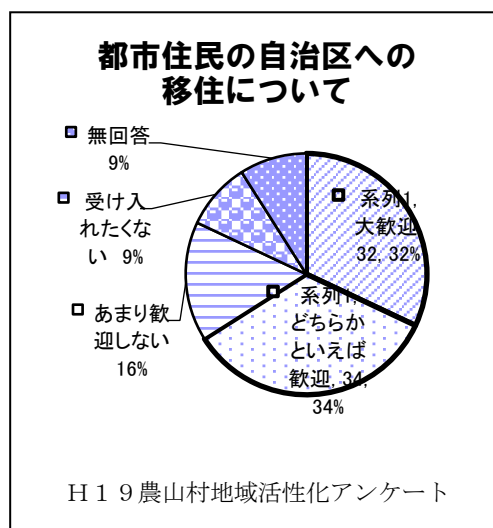
過疎化が進むと10年後には人口が1000人を下回ります

- ①何も対策をしなければ
10年後には、人口が
955人まで減少します
- ②65歳以上の高齢者が
人口の50%以上占める
集落（「限界集落」と呼
ばれています）が3集落
それに近づいている集落
が4集落あります



都市住民が自治区へ移住することを歓迎する人が多い

- ①都市住民が自治区へ移住
することを66%の人が
歓迎するとしています
- ②都市との交流を40%の
人が必要と考えており、
その手段として「貸し農
地の提供」を考えている
人が多くいます



3 しきしまの自慢と困りごと

しきしまの自慢 (財産)

- ① 豊かな自然環境と山里の美しい景観
- ② 温かい人間関係と地域の連帯感
- ③ 老人憩いの家やぬくもりの里のサービス
- ④ しきしまのシンボル貞観杉（国指定天然記念物）
- ⑤ 「縁結び岩」のあるお須原山
- ⑥ 棒の手を始め有形、無形文化財の宝庫
- ⑦ 加塩町の庚申堂、押井町の普賢院はじめ由緒あるお寺
- ⑧ フジバカマが咲くアサギマダラ（蝶）の飛来地
- ⑨ 市内に数少ない温泉宿
- ⑩ 2箇所ある農産物直売所
- ⑪ 子ども園、小学校、旭地区唯一の中学校
- ⑫ 旭工業、笹戸カントリークラブ、複数の建設業など雇用の場
- ⑬ 問題を放置せず議論する地域の気風



無形民俗文化財 棒の手

しきしまの困りごと (課題)

- ① 過疎化・高齢化の進行が著しい
- ② ひとり暮らし老人の増加
- ③ 医療機関が遠い
- ④ 買い物が不便
- ⑤ 公共交通が不十分
- ⑥ 未改良の道路が多い
- ⑦ 農業用施設の老朽化
- ⑧ 後継者が定着する職場が少ない
- ⑨ 耕作放棄地の拡大と、山林の荒廃化
- ⑩ イノシシ被害の拡大
- ⑪ 小川の水質が汚濁している恐れがある
- ⑫ 昼間人口が少ないことによる犯罪や災害の不安
- ⑬ 会議や活動の顔ぶれがいつも同じ



押井町で捕獲された巨大イノシシ

4 しきしまの将来像

まちづくり ビジョン

ときめきプランでめざす将来像

- ① 都市と農山村の共生モデル地区として全国の注目を集めています
- ② お年寄りが元気で働き、子供たちが生き生きと学び、活動しています
- ③ 手入れされた田畑や山林、清流が環境モデル都市を代表する景観になっています
- ④ 助け合いを大切に、多少は不便でも安全で安心して暮らせる社会基盤の整った地域になっています
- ⑤ 歴史や文化財、伝統的な行事が受け継がれ、祭りが盛大に行われています

10年後のしきしまの姿

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り

人々が生き生きと暮らす山里 し

活動の基本方針

基本方針1 過疎化ストップにチャレンジ

基本方針2 しきしまの宝を守る

基本方針3 安心して暮らせる基盤をつくる

活動の目標値

目標指標	現在	5年後	10年後
自治区人口	1,186人	1,050人	1,000人
体験交流人口	200人／年	500人／年	1,000人／年
特産物出荷者	27戸	100戸	200戸
合併浄化槽	38%	50%	70%
つどいの家	0戸	3戸	5戸
防犯灯	108基	135基	162基

5 プランの体系と主な取組み

豊かな自然 温かい地域のきずなを守り 人々が生き生き暮らす山里 しきしま	基本方針	分野	主な取組み
	過疎化ストップにチャレンジ	1 里づくり	・都市交流イベント事業 ・週末ファーム事業 ・空き家活用事業 ・しきしまサポーター登録事業
	しきしまの宝を守る	2 産業振興	・特産品開発事業 ・拠点施設整備事業 ・獣害対策事業 ・農業基盤再整備事業 ・耕作放棄地解消事業 ・観光コース整備事業
		3 環境保全	・森づくり推進事業 ・山里景観整備事業 ・合併浄化槽普及事業 ・ビオトープ整備事業 ・ほたるの里整備事業
		4 健康福祉	・「つどいの家」整備事業 ・「共同生活の家」整備事業 ・げんき保健事業 ・すこやか教室事業 ・児童・園児・高齢者ふれあい事業 ・スポーツ交流事業
		5 教育文化	・伝統文化担い手育成事業 ・伝統文化記録保存事業 ・棒の手3流派合同イベント事業 ・貞観杉保全事業 ・児童・生徒との交流体験事業 ・しきしま人材活用システム事業
	安心して暮らせる基盤をつくる	6 農村整備	・道路危険箇所整備推進事業 ・予約型乗合タクシー導入事業 ・情報化推進事業 ・「榊野広場」活用検討事業 ・共同利用施設整備事業
		7 安全安心	・防犯灯整備事業 ・かしこい高齢者育成事業 ・防災体制整備事業 ・交通安全推進事業

6 分野別計画

1里づくり		都市住民との交流を通して敷島ファンを増やし、地域活動やまつりへの協力を得るほか、空き家や遊休農地の活用による移住へと結びつけ、地域活力の維持、過疎の抑止を図る							
テーマ		分野の目標	項目	現状	5年後	10年後			
住んで楽しい			交流人口	200人	500人	1,000人			
住んでみたい里づくり			週末ファーマー	—	50人	100人			
			しきしまサポーター	—	200人	500人			
			移住世帯	—	5戸	10戸			
施策項目		方針			主な予定事業				
(1) 都市との交流		体験型交流イベントを拡充すると共に、遊休農地を活用した市民農園を開設する			①都市交流イベント事業 ②週末ファーム事業				
(2) 過疎化対策		地域活動への協力を得る準住民登録制度の創設、空き家活用による移住を目指す			①空き家活用事業 ②しきしまサポーター登録事業				
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名		22	23	24	25	26	主体	活用制度
	(1)-① 都市交流イベント事業		拡充・継続実施					自治区	わくわく事業
	(1)-② 週末ファーム事業		検討	整備	募集・運用			自治区	市民農園整備促進事業
	(2)-① 空き家活用事業		登録・運用					自治区	空き家データバンク事業
	(2)-② しきしまサポーター登録事業		検討	募集・運用				自治区	わくわく事業



さつまいも植付け



さつまいも掘取り

2 産業 振興

特産化によるブランド価値を高めつつ、生産物、収穫物が現金収入につながる流通のしくみを構築する。段階的に体験ファーム、農村レストランなどへの展開を目指す

テーマ		分野 の 目 標	項目	現状	5年後	10年後			
新しい産業おこし に向け種をまこう			特産品出荷者	27戸	100戸	200戸			
			拠点施設	なし	簡易施設	本格施設			
			獣害対策	4集落	9集落	9集落			
			基盤再整備	－	完了	－			
			観光コース	－	3集落	6集落			
施策項目		方針		主な予定事業					
(1) 新産業おこし	特産品開発、都市部への流通 ルートおよび産地直売、活動 拠点の整備を目指す		①特産品開発事業 ②拠点施設整備事業						
(2) 産業基盤づくり	集落ぐるみの獣害対策、耕作 放棄地解消対策を進めつつ 農業基盤再整備を推進する		①獣害対策事業 ②農業基盤再整備事業 ③耕作放棄地解消事業						
(3) 観光基盤づくり	集落単位の観光コースづく りを進め、段階的にしきしま 観光ネットワークをつくる		①観光コース整備事業						
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名		22	23	24	25	26	主体	活用制度
	(1)-① 特産品開発事業		拡充・継続実施					自治区	わくわく事業
	(1)-② 拠点施設整備事業		整備・運用Ⅰ		整備・運用Ⅱ			自治区	わくわく事業
	(2)-① 獣害対策事業		事業実施		維持・管理			農事組 合	緊急野生獣類 被害防止対策 事業
	(2)-② 農業基盤再整備 事業		計画策定		設計	整備工事		土地改 良区	土地改良事業
	(2)-③ 耕作放棄地解消 事業		調査	事業実施				農事組 合	耕作放棄地対 策事業
	(3)-① 観光コース整備 事業		調査	事業実施				各組	わくわく事業

3 環境 保全

豊かな自然環境や山里の美しい景観は、地域の誇りであり、都市住民の憧れでもある。このかけがえのない財産を磨き上げ、環境モデル都市の農山村を代表する自然環境、景観づくりを目指す

テーマ		分野の目標	項目	現状	5年後	10年後					
豊かな自然環境と 美しい山里景観の保全			森づくり会議	5 会議	7 会議	8 会議					
			自慢の景観	20 箇所	50 箇所	100 箇所					
			合併浄化槽普及率	38 %	50 %	70 %					
			ビオトープ	－	5 箇所	7 箇所					
			ほたるの里	－	3 箇所	5 箇所					
施策項目		方針		主な予定事業							
(1) 森と景観づくり		間伐による健全な森づくり、 自慢のビューポイントづくり を集落ごとに推進する		①森づくり推進事業 ②山里景観整備事業							
(2) 自然環境の保全		合併浄化槽の普及により清 流を取り戻すと共に多様な 生物の生息環境を整備する		①合併浄化槽普及事業 ②ビオトープ整備事業 ③ほたるの里整備事業							
5 か 年 ア ク シ ョ ン プ ラ ン	事業名		22	23	24	25	26	主体	活用制度		
	(1)-① 森づくり推進事業		団地化・間伐推進						森づく り会議	市森づくり支 援事業	
	(1)-② 山里景観整備事業		計画	事業推進						各 組 愛護会	わくわく事業 緑化推進事業
	(2)-① 合併浄化槽普及 事業		計画	普及推進						自治区 各 組	合併処理浄化 槽設置費補助 制度
	(2)-② ビオトープ整備 事業		計画	事業推進						各 組 愛護会	土地改良事業 わくわく事業
	(2)-③ ほたるの里整備 事業		計画	事業推進						各 組 愛護会	土地改良事業 わくわく事業



ビオトープ／b i o t o p

生き物（b i o）がありのままに生息活動する場所（t o p）

という意味の合成されたドイツ語。

洞奥の耕作に不向きな湿田を、耕作放棄地として放置するのではなく、水張りし、少し手入れすれば立派な

4 健康福祉		向こう三軒両隣、互いに助け合い、地域の宝であるお年寄りと子供たちを地域で守り育てる。より多くの住民がスポーツに親しみ、交流を図りながら青少年を育て健康づくりを推進する							
テーマ		分野の目標	項目	現状	5年後	10年後			
お年寄りと子供を 地域で守り育てる			集いの家	－	3戸	5戸			
			共同生活の家	－	1戸	3戸			
			元気保険事業	毎月	毎月	毎月			
			すこやか教室	2回	2回	4回			
			スポーツ交流	3回／月	4回／月	5回／月			
施策項目		方針		主な予定事業					
(1) 高齢者福祉		向こう三軒両隣、互いに助け合い、一人暮らしの高齢者も楽しく暮らせる地域づくり		①「集いの家」整備事業 ②「共同生活の家」整備事業 ③げんき保健事業					
(2) 子育て支援		地域の宝である子供たちを地域で育てる。子供会と老人クラブの交流推進		①すこやか教室事業 ②児童・園児と高齢者のふれあい事業					
(3) スポーツの振興		生涯スポーツや健康増進のため、より多くの住民がスポーツに親しめる環境づくり		①スポーツ交流事業					
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名		2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	主体	活用制度
	(1)-① 「集いの家」整備事業		検討・候補地選定			整備推進		自治区 各 組	わくわく事業
			「敷島宅老所」の継続・2回／年						
	(1)-② 「共同生活の家」整備事業		検討・候補地選定			整備推進		自治区 各 組	わくわく事業
	(1)-③ げんき保健事業		事業継続・内容拡充						
	(2)-① すこやか教室事業		事業継続・内容拡充					自治区	
	(2)-② 児童・園児と高齢者のふれあい事業		検討		段階的实施				
	(3)-① スポーツ交流事業		事業継続・イベント見直し					自治区 自主グループ	

5 教育文化		棒の手、打ち囃子などの伝統文化、貞観杉など有形文化財を適切に管理保存し、後世に継承する。また、子供からお年寄りまで生涯学びあい、家族や友人を大切にする環境づくりを進める。まちづくりなどの達人を発掘、育成、活用するシステムを構築する。							
テーマ		分野の目標	項目		現状	5年後	10年後		
伝統文化の継承と生涯学習の振興			棒の手会員数		119名	維持	維持		
			打ち囃子会員数		約70名	維持	維持		
			貞観杉復旧		—	完了	保全		
			体験プログラム数		—	6回	12回		
			人材バンク登録者		—	10人	20人		
施策項目		方針			主な予定事業				
(1) 伝統文化の継承		棒の手、打ち囃子などの伝統文化、貞観杉など有形文化財を適切に管理保存し、後世に継承する			①伝統文化担い手育成事業 ②伝統文化記録保存事業 ③棒の手3流派合同イベント事業 ④貞観杉等文化財保全事業				
(2) 生涯学習の振興		子供からお年寄りまで生涯学びあい家族や友人を大切にする環境づくり			①児童・生徒との交流体験事業				
(3) 人材活用・育成		まちづくりを牽引する人材、各種の達人を発掘、育成、活用するシステムの構築			①しきしま人材活用システム事業				
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名		22	23	24	25	26	主体	活用制度
	(1)-① 伝統文化担い手育成事業		継続実施・担い手育成					自治区保存会	郷土芸能活動推進事業等
	(1)-② 伝統文化記録保存事業		調査・検討		記録媒体の作成			自治区保存会	郷土芸能活動推進事業等
	(1)-③ 棒の手3流派合同イベント事業		継続実施・内容拡充					自治区保存会	わくわく事業
	(1)-④ 貞観杉等文化財保全事業		計画策定		設計	整備工事		杉本組各組	文化財保存修理助成事業等
	(2)-① 児童・生徒との交流体験事業		調査・検討		プログラム実施			自治区	わくわく事業
	(3)-① しきしま人材活用システム事業		調査・検討		システム構築・活用			自治区	わくわく事業

6 農村整備

多少は不便でも、安全で安心して暮らせる社会基盤が整備され、住民の手で大切に維持されている。田舎であっても気品とぬくもりが感じられ、若者が生涯の定着を望むまちをつくる

テーマ		分野の目標	項目	現状	5年後	10年後		
敷島自治区民が真に必要な社会基盤の整備			道路整備	－	危険箇所半減	危険箇所ゼロ		
			予約タクシー	－	運行開始	運行継続		
			情報化推進	難地区多数	難地区半減	難地区ゼロ		
			榊野広場	－	計画確定	整備完了		
			共同施設整備	未改修多数	未改修半減	未改修ゼロ		
施策項目		方針		主な予定事業				
(1) 道路整備	真に危険な箇所の整備、沿線選別間伐による視距確保による交通安全の推進		①道路危険箇所整備推進事業					
(2) 公共交通整備	移動手段を持たない住民が真に必要な移動手段を確保する		①予約型乗合タクシー導入事業					
(3) 情報化推進	自治区ホームページの開設など情報化の推進と携帯電話難受信地区の解消		①情報化推進事業					
(4) 共同利用施設整備	「榊野広場」の最も有効な活用、高齢化社会に対応した施設のバリアフリー化推進		①「榊野広場」活用検討事業 ②共同利用施設整備事業					
5	事業名	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	主体	活用制度
か 年 ア ク シ ョ ン プ ラ ン	(1)-① 道路危険箇所整備推進事業	調査	要望	事業実施			道路管理者	
	(2)-① 予約型乗合タクシー導入事業	調査・検討		制度設計		運行	地域会議 豊田 市 自 治 区	
	(3)-① 情報化推進事業	調査・検討		要望継続・HP開設			自治区	わくわく事業
	(4)-① 「榊野広場」活用検討事業	調査・検討		素案	計画確定		地域会議 豊田 市 自 治 区	
	(4)-② 共同利用施設整備事業	調査	要望		事業実施		自治区	市補助事業

7 安全 安心		安全で安心な暮らしは、都市と農村に関わらず確保されなければならない。人口の少ない農村であり、互いに助け合う仕組みを構築するほか防犯灯などの安全施設の整備を推進する							
テーマ		分野の目標	項目	現状	5 年後	1 0 年 後			
互いに助け合う 安全安心なまちづくり			防犯灯数	1 0 8 基	1 3 5 基	1 6 2 基			
			消費者被害	被害あり	被害半減	被害ゼロ			
			独居老人見守り	体制整備中	体制完備	体制完備			
			交通事故	事故数件	事故ゼロ	事故ゼロ			
			通学路危険箇所	危険箇所あり	危険箇所ゼロ	危険箇所ゼロ			
施策項目		方針		主な予定事業					
(1) 犯罪のないまち		防犯灯の計画的整備、消費者被害に遭わないかしこい高齢者を育成する		①防犯灯整備事業 ②かしこい高齢者育成事業					
(2) 災害に強いまち		災害時における一人暮らしの高齢者見守り体制の確立		①防災体制整備事業					
(3) 交通事故のないまち		運動期間中の街頭活動のほか日常の安全啓発、通学路の危険箇所解消をめざす		①交通安全推進事業					
5 か年アクションプラン	事業名		2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	主体	活用制度
	(1)-① 防犯灯整備事業		調査	計画的整備推進				自治区	市助成制度
	(1)-② かしこい高齢者育成事業		調査・検討	講座の開催				自治区	消費生活センター移動講座
	(2)-① 防災体制整備事業		調査	見守り体制の確立				豊田市 自治区 各 組	
	(2)-② 交通安全推進事業		調 査	啓発活動・危険箇所解消				自治区	



高齢者の足 おいでんバス



敷島自治区敬老会

7 重点プロジェクト

5年間のアクションプラン期間中に、特に重点的に取り組むことにより、しきしまがめざす地域の将来像「豊かな自然、温かい地域のきずなを守り、人々が生き生きと暮らす山里 しきしま」の原動力となる先導的な取組みを、チャレンジプロジェクトとして重点的に推進します。

ときめきプラン ♡チャレンジプロジェクト 5

- 1 都市農山村共生モデルプロジェクト
- 2 特産品による地域おこしプロジェクト
- 3 豊かな自然景観保全プロジェクト
- 4 お年寄りと子どもを地域で守り育てるプロジェクト
- 5 安心生活基盤づくりプロジェクト

チャレンジプロジェクト

1

過疎化ストップ

都市農山村共生モデルプロジェクト

都市住民が自らのメリットを得ながら実質的に農山村の暮らしをサポートする支えあいの仕組みを構築します。

遊休農地を「週末ファーム」として貸出し、獣害対策や平日の管理を地元で行います。都市住民を「しきしまサポーター」として登録し、イベントやお役にも協力していただきます。

リーディング事業

- 1-(1)-① 都市交流イベント事業
- 1-(1)-② 週末ファーム事業
- 1-(2)-② しきしまサポーター登録事業

5年後の目標

交流イベント参加者	500人／年
週末ファーマー	50人
しきしまサポーター	200人



稲刈り体験会

2

新しい産業 をおこす

特産品による地域おこしプロジェクト

特産化によるブランド価値を高めつつ、生産物、収穫物が現金収入につながる流通のしくみを構築します。10人の若者（若者よ田舎を目指そうプロジェクト）を含めた新たな事業体を設立し、体験ファーム、農村レストランなどへの展開を目指します。高齢者をはじめ、皆が生きがいを感じながら田畑で働ける仕組みを作ります。

リーディング事業

- 2-(1)-① 特産品開発事業
- 2-(1)-② 拠点施設整備事業
- 2-(2)-② 農業基盤再整備事業

5年後の目標

特産物出荷者	100戸
拠点施設の整備	簡易施設建設
新たな事業体	設立



農産物直売所

3

自然と景観 を守る

豊かな自然景観保全プロジェクト

森づくり、山里景観整備、合併浄化槽の普及、ビオトープづくり、花やもみじの名所づくりなどにより山里の宝である自然や景観を磨き上げます。ビオトープづくりでは、学校教育との連携を図るほか、里山整備では「しきしまサポーター」にも参加を呼びかけ、楽しみながら事業を推進します。

リーディング事業

- 3-(1)-① 森づくり推進事業
- 3-(1)-② 山里景観整備事業
- 3-(2)-① 合併浄化槽普及事業

5年後の目標

森づくり会議	7集落
合併浄化槽普及率	50%
ビオトープづくり	5箇所



清流での川遊び

4

お年寄りと 子どもを地域で 守り育てる

お年寄りと子どもを守るプロジェクト

「集いの家」「共同生活の家」の開設、すこやか教室、「しきしま宅老所」などにより、一人暮らしの高齢者や子どもたちを地域で支え、育てる機運、仕組みを構築します。また、児童・園児と高齢者のふれあい事業により老人保健福祉と子育て支援の相乗効果の発揮をめざします。

まちづくりや各分野の達人など人材の育成を図ります。

リーディング事業

4-(1)-①「集いの家」整備事業

4-(1)-②「共同生活の家」整備事業

5-(3)-① しきしま人材育成システム事業

5年後の目標

「集いの家」 3戸

「共同生活の家」 1戸

人材バンク登録者 10人



杉本子ども園人形劇

5

安心して暮らせる まちをつくる

安心生活基盤づくりプロジェクト

多少は不便でも、安全で安心して暮らせる社会基盤づくりをめざします。道路の危険箇所の整備を強力に要請するほか、予約型乗合タクシーの導入や携帯電話難受信地区の解消に向け事業者と交渉します。また、防犯灯の整備、防災体制の拡充、交通安全の一層の推進を図ります。

リーディング事業

6-(1)-① 道路危険箇所整備推進事業

6-(2)-① 予約型乗合タクシー導入事業

7-(1)-① 防犯灯整備事業

5年後の目標

道路危険箇所 半減

予約型乗合タクシー 運行開始

防犯灯 135基



榊野町での防災訓練

8 プランの推進に向けて

「しきしま ときめきプラン」は、「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」の10人の若者たちの話題など、しきしまがかつてなく注目される中で、素案に対する意見募集や公開討論会などを経て、みんなで策定した自治区の総合計画です。

しきしまの自慢の一つ、「問題を放置せず議論する気風」から生まれたこのプランを道しるべとして、自治区および構成する団体やグループがいかに関心を実践するかが重要です。「議論したことを実践する気風」をしきしまの自慢の一つにしましょう。

ポイント

1

無理をせず楽しんで取り組もう

がんばり過ぎは禁物。長続きしません。しきしまらしく、身の丈にあった取り組みで、参加者が楽しみながら、少しずつ、着実に課題を解決していきましょう。

ポイント

2

都市住民や専門家に頼ろう

農村にあこがれている人が増えています。しきしま出身の人も将来を心配しています。専門家を含め、応援してくれるすべての人の力を借りることが目標達成の近道です。

ポイント

3

柔軟な見直し、PDCAサイクルにこだわろう

みんなで考えた計画ですが、時代の変化は早く、どんどん変わっています。計画（P）実行（D）評価（C）改善（A）をきちんと行い、必要な見直しは柔軟に行いましょう。



杉本町エビネまつり



敷島盆踊り

しきしま ときめきプラン

資 料 編

■ときめきプラン策定経緯	21
■敷島自治区基礎データ	22
■日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト	24
■魅力ある地域づくりの会	25
■公開討論会発言要旨	26
■ときめきプランへの意見	31
■新聞記事スクラップ	32

資料 ときめきプラン策定経緯

ステップ	月／日（曜日）	会議名等	概 要
計画準備	8月23日（日）	第1回PJ会議	計画の意義・目的 計画の構成イメージ 策定スケジュール・体制
資料収集 整理解析	9月26日（土）	第2回PJ会議	上位、関連計画の位置づけ 既存資料分析 地域の資源、課題
	10月17日（土）	自治区総務部会	中間報告 各部の課題・方針提出依頼
	10月25日（日）	第3回PJ会議	地域の将来像 テーマ、目標指標 分野別課題、計画骨子
	11月14日（土）	自治区総務部会	各部の課題・方針提出 若者PJの現状、方針確認
分野計画	11月22日（日）	第4回PJ会議	分野別計画 重点プロジェクト
	12月12日（土）	自治区総務部会	中間報告 各部組長意見募集
行動計画	12月26日（日）	第5回PJ会議	アクションプラン ネーミング案決定 区民意見募集の方法
意見募集	1月16日（土）	自治区総務部会	概要版全戸配布依頼 意見募集依頼 公開討論会参加者依頼
	1月31日（日）	公開討論会準備	公開討論会準備作業
	2月 7日（日）	公開討論会	計画案発表 公開討論（地区内外13名） 傍聴者100名
	2月 7日（日）	第6回PJ会議	討論会発言分析 計画案補正
推進計画 計画決定	2月28日（日）	第7回PJ会議	推進計画 区民募集意見分析 計画案補正、計画本編編集
	3月 7日（日）	自治区総会	最終計画案発表 しきしまときめきプラン決定

資料 敷島自治区基礎データ

■しきしまの人口推移

各年10月1日現在／人

町名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
明賀町	53	44	44	44	53	55
太田町	146	147	144	144	137	137
大坪町	165	170	171	162	165	159
押井町	106	111	109	106	104	103
加塩町	147	146	140	132	129	124
小田町	27	24	24	24	26	24
榊野町	215	212	212	210	207	202
杉本町	272	290	292	298	298	281
東萩平町	97	95	90	90	86	86
万根町	20	20	20	18	19	15
敷島自治区	1,248	1,259	1,246	1,228	1,224	1,186
旭地区	3,551	3,533	3,473	3,402	3,359	3,291

《参考》旭地区の人口推移と将来推計

国勢調査／人

区 分	過疎地域計（旭、小原、足助、稲武）	非過疎地域計 （藤岡、下山、豊田）	豊田市全体
	旭地区		
S40	6,482	30,532	146,809
S50	4,821	24,602	258,810
S60	4,213	23,293	320,812
H7	3,844	22,016	361,784
H17	3,284	19,778	392,363
H27	2,742	17,450	412,921
H37	2,181	14,927	418,870
H47	1,678	12,346	407,500

出典：「過疎対策に対する調査研究報告書」平成21年3月（豊田市社会部）

■しきしまの指定文化財

種 別	名 称	指定	時期	所 在	備 考
国天然記念物	杉本の貞観スギ	1944	平安	杉本町	県下最大の杉
県無形民俗	旭町の棒の手	1976	明治	大坪町	起倒流、明治18年伝承
市彫刻	木造阿弥陀如来立像	1975	江戸	太田町	一木造、像高31.5cm
市彫刻	木造聖観音菩薩立像	1975	鎌倉	杉本町	一木造、像高62.0cm
市彫刻	押井の磨崖仏	1975	江戸	押井町	俱利伽羅明王像
市無形民俗	藤牧検藤流棒の手	1986	大正	杉本町	明治中期伝承
市無形民俗	丹波大垣内流打ちはやし	1986	明治	杉本町	明治30年伝承
市無形民俗	見当流棒の手	1987	明治	押井町	明治19年伝承
市天然記念物	慈眼寺のすぎ	1984	江戸	杉本町	樹齢 推定350年
市天然記念物	磨崖仏のけやき	1984	江戸	押井町	樹齢 推定300年

出典：豊田市ホームページ

■しきしまの耕作放棄地

m²

町名	農振地域内			農振地域外		
	耕作可能	原野化	山林化	耕作可能	原野化	山林化
明 賀 町	0	198	3,227	13,284	9,119	98,731
太 田 町	1,100	3,056	6,673	6,662	3,038	63,973
大 坪 町	12,834	2,895	28,124	168	206	145,025
押 井 町	10,525	9,327	8,731	7,450	23,208	68,392
加 塩 町	8,890	8,238	11,339	0	17	81,326
小 田 町	0	0	0	4,045	0	28,333
榊 野 町	2,069	785	3,947	85	0	102,775
杉 本 町	8,431	24,224	3,320	5,108	52,409	150,529
東 萩 平 町	19,968	13,939	15,713	8,697	4,095	61,484
万 根 町	0	11,398	21,907	0	0	57,972
敷島地区計	63,817	74,060	102,981	45,499	92,092	858,360

出典：豊田市農業委員会（平成21年度調査）

■しきしまに関わる主な出来事

西暦	年号	出来事
1906	明治39年	能見村、介木村、築羽村が合併して旭村となる
1907	明治40年	旭村役場が小渡から太田に移された
1910	明治43年	太田・小渡・大坪尋常小学校校舎が新築された
1915	大正4年	足助・杉本・小渡間にバス運行が開始された
1932	昭和7年	太田尋常小学校が廃止となり築羽・敷島に統合された
1940	昭和15年	旭村役場が太田から小渡に移転された
1941	昭和16年	太平洋戦争が始まり、尋常小学校が国民学校となった
1945	昭和20年	太平洋戦争が終わった
1947	昭和22年	国民学校が小学校と改められ、旭中学校、三濃中学校ができた
1955	昭和30年	旭村が岐阜県三濃村と合併した
1959	昭和34年	伊勢湾台風が襲い、旭村にも大きな被害が出た
1966	昭和41年	矢作ダム建設が始まった。八幡・杉本へき地保育所が開設された
1967	昭和42年	旭村が旭町となった
1969	昭和44年	敷島小学校と大坪小学校が統合し、敷島小学校が開校した
1970	昭和45年	旭町役場（現支所）、敷島小学校が現在地に移転新築された
1971	昭和46年	矢作ダムが完成した
1972	昭和47年	老人憩いの家ができた。集中豪雨に襲われた。
1976	昭和51年	太田に不燃物処理場ができた
1978	昭和53年	土地改良区がつくられ、ほ場整備が盛んに行われるようになった
1979	昭和54年	上水道工事が全町で始まった
1988	昭和63年	敷島農村環境改善センターが完成した
1991	平成3年	旭町情報連絡施設（同報無線）が全戸についた
1996	平成8年	旭中学校と浅野中学校が統合、現在地に新校舎が開校した
2005	平成15年	榊野大橋（県道土岐足助線バイパス）が開通した
2007	平成17年	豊田市に合併し、敷島自治区が誕生した

出典：旧旭町教育委員会小学校副読本ほか

資料 日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト

全国の都市部から公募した若者10人が、太田町、東萩平町の空き家に居住し、耕作放棄地など遊休農地を借りて、農業をなりわいとした持続可能な農山村の暮らしにチャレンジしている。過疎化が進むしきしまに、新しい風を巻き起こしつつある若者たちに期待したい。

1 事業の仕組み

豊田市が、国のふるさと雇用特別基金の補助を受けて、㈱M-easy（名古屋大学発の農業ベンチャー企業）に業務を委託、同社が平成24年3月までの2年7ヶ月、10人の若者を雇用し、委託終了後の自立経営をめざす。東京大学大学院の牧野篤教授が、事業全体をコーディネートし、農業だけでなく、魅力ある地域づくりをサポートする。

2 ㈱M-easy（エム イージー）がめざす農業の特徴

- ① 有機無農薬農業（不耕起多品目栽培）による安全で付加価値の高い農産物を供給、常滑市で実績を上げつつある
- ② 耕作放棄地を活用するほか竹炭を土壌改良剤として耕地に投入、竹の繁茂による日照障害や景観の改善など地域の環境整備にも貢献する
- ③ 販売部門（やさい安心クラブ）を社内に持ち、都市部（名古屋市、豊田市など）で直接販売し収益性の確保を図る
- ④ 地域の農家が栽培した野菜も集荷し、都市部への直接販売ルートに乗せ、販売量の確保と地域活性化への貢献をめざす
- ⑤ つくば工房を活用した加工品の開発、都市部住民の体験農業の受入れ、農村レストランの経営なども展望し、地域への定着をめざす

3 現在の状況

- ① 93aの借入れ農地でスタートし、平成22年4月からは新たに237aを借入れ330aの経営規模となる
- ② 作付け、販売を徐々に拡大しつつも、平成22年度は耕地の土壌改良、条件整備が主体となり、本格的な生産販売は平成23年度からになる



しきしまの住民となった若者たち

伊与田友也（26）	志波 和明（22）
伊藤 直（25）	松尾 裕次（33）
眞野 英気（28）	原 昌也（33）
渡邊 照見（31）	北原さとみ（32）
山田 友紀（32）	横山 春奈（23）

■ 太田町に6名、東萩平町に4名居住

■ （ ）内の年齢は、採用決定時

資料 魅力ある地域づくりの会

早期に基盤整備（県営ほ場整備事業）を行った旭地区の農業用施設は、老朽化や獣害被害による機能不全などの課題が発生している。このため、県と市の支援を受けて、農業基盤の再整備を視野に、農業を中心とした魅力ある地域づくりのモデル事業に取り組むことになった。

1 事業の推進イメージ



2 これまでの経緯

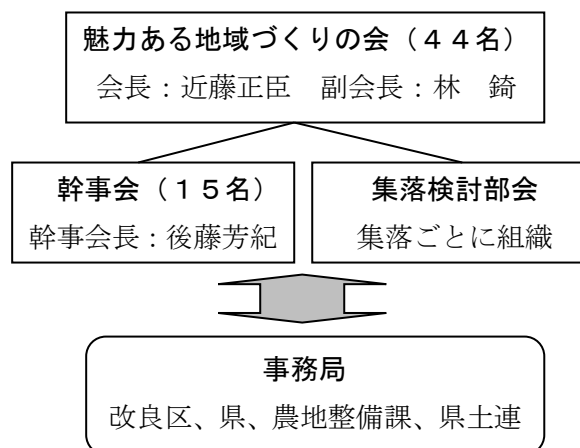
- 9月12日（土）敷島地区の農業による地域づくり懇談会
- 10月 1日（木）魅力ある地域づくりの会発足・全体会
- 10月～11月 各集落検討会
- 11月～12月 地域資源、課題の現地調査会（9集落、4日間）
- 1月12日（火）幹事会／現地調査のとりまとめ
- 2月25日（木）幹事会／課題整理、今後の進め方
- 3月23日（火）全体会／現状と課題、今後の進め方の確認

3 主な地域資源、課題

資 源	課 題
・ホテル、メダカの生息地がある ・花、紅葉の美しい自慢の場所がある ・神社、仏閣、記念碑などが多い ・御嶽山など自慢の展望所がある ・美しい農村景観がある	・農道、用排水路の課題箇所多数 ・イノシシによる被害箇所多数 ・水不足を補うため池の要望がある ・耕作放棄地の多い集落がある ・再整備後の農業経営に不安がある



幹事会の様子



資料 公開討論会発言要旨

公開討論会「過疎化ストップへの挑戦！いま私たちができること」

○日 時 平成22年2月7日（日）午後1時～3時

○場 所 敷島会館ホール

○参加者

区分	氏名	所属等
コーディネーター	加藤 栄司	愛知県交流居住センター事務局長
討論参加者	1 安藤 三千代	壮年女性（榊野町）
	2 田澤 眞	壮年男性（加塩町）
	3 近藤 美喜子	嫁代表（東萩平町）
	4 安藤 里乃	青年女性代表（大坪町）
	5 後藤 芳文	青年男性代表（東萩平町）
	6 安藤 有佑	旭中学校生徒（加塩町）
	7 吉田 由美子	都市部交流住民（日進市）
	8 松尾 裕次	「田舎をめざそう」若者（東萩平町）
	9 伊与田 友也	「田舎をめざそう」若者（太田町）
	10 鈴木 宜志	事業所代表（榊野町）
	11 後藤 芳紀	組長代表（押井町）
	12 藤野 勝利	自治区里づくり部長（大坪町）
	13 林 綺	自治区産業部長（加塩町）
オブザーバー	近藤 正臣	自治区長
	塚本 誠	豊田市旭支所長
	天野 正直	豊田市社会部自治振興課長

○発言要旨

1 自己紹介及び興味のある、期待しているチャレンジプロジェクト

- ・ 自治区の産業部長として産業創出に取り組んでいる。産業創出による特産品の売上げ目標は100億円。現在、30名の会員と週1回の研修会をしている。プロジェクト2「新しい産業をおこす」に関心がある。（林）
- ・ 自治区の里づくり部長。役場時代から過疎対策に関わってきた経験から、地価の高い所にしか人は住まない、というのが私の持論。この地区の土地にどのような価値を付けるか、美しい景観しかないと思っている。プロジェクト3「自然と景観を守る」に関心がある。（藤野）
- ・ 退職後、5年間押井町の組長をやっている。押井町として5年間の計画を立てて取り組んできた。また、次の5年計画に入りたいと思っている。みんながこの地区を愛しく思い、楽しく安全に過ごせる地域にすることが大切。プロジェクト4「お年寄りと子どもを地域で守り育てる」5「安心して暮らせるまちをつくる」に関心がある。（芳紀）
- ・ 事業所の代表。プロジェクトは5つとも関心がある。短期目標と長期目標に分

けている点も良いと思う。ただ、PDCAのサイクルのなかで、C（検討）A（改善）の部分がいちばん難しい。今後、どのようにCAの部分に取り組むかが大切。区切りの5年後、しっかり検討が必要だ。（鈴木）

- ・ 若者よ田舎をめざそうプロジェクトで旭地区へ来た。2年間の事業であるが、農業に取り組んでいるので、プロジェクト2「新しい産業をおこす」に関心がある。（伊与田）
- ・ 若者よ田舎をめざそうプロジェクト参加者で、M-Eazyという農業をやる会社の社員でもある。プロジェクト2「新しい産業をおこす」に関心があるし、協力できたらと思う。（松尾）
- ・ 日進市に住んでいる。農業に関心があり、この地域は人柄が良くて交流させてもらった。敷島への移住も考えたが、旧津具村で就農予定。過疎対策に必要なのは、その地域に産業があること。イベントをやって、やる側が疲弊してしまうようではマズイ。プロジェクト1「過疎化ストップ」、2「新しい産業をおこす」に関心がある。（吉田）
- ・ 中学生。毎日4キロの道のりを自転車通学している。プロジェクト5「安心して暮らせるまちをつくる」に関心がある。（有佑）
- ・ 森林組合に勤めている。豊かな景観、森作りに関心がある。プロジェクト3「自然と景観を守る」に関心がある。（芳文）
- ・ 21年間、旭にずっと住んでいる。プロジェクト2「新しい産業をおこす」に関心があるし、若者よ田舎をめざそうプロジェクトにも関心を持っている。（里乃）
- ・ 敷島地区に嫁いで19年になる。3児の母であり、姑もいるので、プロジェクト4「お年寄りと子どもを地域で守り育てる」に関心がある。（近藤）
- ・ 70歳になる。この地区には貞観杉や棒の手のほか、私たちが気づいていない財産がまだまだあると思う。自然と景観を守り、この地域にしかない財産を守り育てることが、まちづくりの基本だと思う。豊田市が環境モデル都市になった。この地域をそのモデルにしたい。プロジェクト3「自然と景観を守る」に関心がある。（田澤）
- ・ この地区に住んで、50年ちかくになる。プロジェクト3「自然と景観を守る」に関心がある。（安藤）

2 敷島で、過疎化はストップできるか

「①できると思う、②まあまあできそうだと思う、③できそうだとはいあまり思わない、④無理、⑤わからない」、の5つの選択肢を用いて、討論参加者に①～⑤の旗を上げてもらう。②、③を上げる人が多く、他に①、⑤も上がるが、④を上げる人はいなかった。

①「できると思う」と答えた人の意見

- ・ 私が考える過疎化の定義は人口密度とエネルギー。人口密度で言えば、カナダなんか日本の10分の1でしかない。エネルギーも、徳島に上勝町というお年寄りが葉っぱビジネスでがんばっている町があるが、旭のほうが平均年齢も若い。地域のエネルギーで過疎化はストップできると思う。（林）

⑤「わからない」と答えた人の意見

- ・今日のテーマに反するかもしれないが、過疎でも住民がそれを受け入れていれば良いのではないかと。1万人の人がいても、不幸だと感じている地区よりも、千人しかいなくても、幸せと感じている地区の方が良いと思う。無理に過疎をストップさせる必要は無い。(松尾)

③「できそうだとはいあまり思わない」と答えた人の意見

- ・仕事の面から、働く場や利便性を考えると、難しい。(有佑)
- ・私はたまたま、地元で就職したから敷島地区に住んでいる。同級生はみんな都市部で暮らしている。(里乃)

②「まあまあできると思う」と答えた人の意見

- ・実は無理かな、と思っているが、最近、隣の空き家に住み始めた若者がいる。「結婚したら、地元の付き合いもする」と言われ、期待している。田舎では思い切って羽目を外せる場所もないかもしれないが、そんな時は都市部へ行って羽目を外し、普段は環境の良いこの地区で暮らす。そんな住み分けすることも良いのではないかと思う。(安藤)

○小規模で高齢化率の高い明賀地区の会場参加者へ質問

- ・この地区のみなさんは熱意のある人が多い。人任せでなく自分でやる。この熱意があれば、過疎化ストップもできると思う。(築井)

○コーディネーターのまとめ

- ・私が住んでいる日進市は、年々人口も増加しているが、そこにも過疎はある。古い団地には、お年寄りばかりが暮らすところもあり、そういった意味では、松尾さんが述べた、「心の過疎」がいちばん怖い。

3 都市農山村交流に向けて、いま私ができること（私が、過疎化ストップに貢献できそうなこと）

- ・私の今の仕事は介護保険事業での家庭訪問。「どこから来たの。」の問いに、敷島地区の空気、米、野菜、人情のことを話す。卒業して敷島を出た同級生には、米が豊作のとき、おすそ分けで送る。これからは趣味の俳句を通じて、この地区のことを発信したい。新しいことはエネルギーとお金がかかる。こうしたことから始めたい。(安藤)
- ・地域づくりは人づくり。これまで、「都市部の人に来てもらうこと」に労力を使っていたが「都市部へ出て行く」ことも大切。都市部のイベントに積極的に参加して宣伝することが大切。そして来てくれた人にまた新たな宝を発見してもらう、そんな交流が大切。(田澤)
- ・いままで、「過疎化ストップ＝人口増」、という考えがあった。しかし、「心の過疎」といった話を聞くと、そればかりではないのかも、という気持ちになる。私は、福祉センターに勤めているので、お年寄りに接する機会が多い。この方たちがいて、私たちがあるのだという思いも強く、そういった意味で世代間の

交流が増えればと思う。また、3人の子供について、敷島地区に住んでほしいという思いもあるが、親と同居が多かった私たちの世代とは、今は結婚観も変わってきている。戻ってこいとは言わないが、生まれ育った地域は良いところだということを伝えていきたい。(近藤)

- ・同級会みたいなことをたくさんして、地元の魅力を伝えたい。また、家族が仲良く暮らすことが大切だと思う。(里乃)
- ・宿命的土着と選択的土着という言葉がある。宿命的土着は不幸。選択的土着でありたい。(加藤)
- ・もうすぐ1歳になる子どもがいる。子どもがいると、近所のおばさんたちが集まってきて、家がにぎやかになる。人とのつながりを深めていきたい。森づくりは山に人の手を入れること。境界の確認などで山に入り、山の良さ、先祖からの財産を再認識する機会になる。そして、間伐等で山が美しくなれば、人も来る。(芳文)
- ・進学などで、地元を離れる人もいると思うが、仲間がいれば戻ってくるきっかけになる。だから仲間とのつながりを大切にしたい。(有佑)
- ・この10年間で全国の2000近い集落が過疎化により消滅すると、国土交通省は言っている。恐らく、ここと似た集落同士の生き残り合戦になると思う。山間地域は今がターニングポイント。都市に住む者として言わせてもらおうと、あちこちの山村部のイベントに出ていちばん思うのは、全国で同じようなことをやっているの、ひとつひとつがあまり印象に残らない。都市の人々はドライな面もあるので、楽しんだらそれで終わり、という感覚もある。そんな中でいちばん印象に残るのは、人とのふれあい。私もこれから旧津具村で農業を始める。住む地域は違うが、横のつながりを大切にしていきたい。(吉田)
- ・農山村で暮らすことがステイタスになるような、新しい価値観の創造をしたい。そのためには、今やっていることを成功させなければならない。良い農地には、良い野菜ができる。まだ、農地が足りないの、貸していただける方は農地を貸してほしい。(松尾)
- ・年々、気候が暖かくなっている。昔は栽培できなかった野菜も栽培可能になると思う。産業部のメンバーとしてその研究をすること、それが産業につながると思う。若者プロジェクトで自分たちが自立できることが目標。そして、2、30代の人たちに、農業で生活できることを発信したい。(伊与田)
- ・この先はわからないが、ここ20年、押井町は戸数が減少していない。押井独自の5年計画を作り実行してきた。今、検証するとほとんどできている。獣害対策をはじめいろいろな事業をやったが、みんなの合意のうえで、負担金は取らないでやってきたことが良かった。今の世帯、人口を保持すれば何とかなる。若い人が住める家庭環境、社会資本整備が必要。そして交流「合コン」があると思う。生涯未婚の人が増えるとNHKの番組でやっていたが、交流により、この地域ではそれを防ぎたい。(芳紀)
- ・住環境の向上。景観にみがきをかけることは可能だと思う。家の周囲、人通りから景観を変えていくことが大切。(藤野)
- ・土地を社会がどう管理するか。土壌の劣化が地域をだめにする。特産品を通じ働く場、人がいて生活できる基盤、農業の6次化を目指したい。今、「つまもの」を毎週出荷している。山のマルシェ(市場)化を考えたい。今は種を蒔く

こと。28 人の部会員と若い人がその種を育てていただければと思う。(林)

3 私の過疎化ストップ活動宣言！

- ・「旭地区の首都形成」人口、社会資源整っている（田澤）
- ・「景観整備」都市との競争に勝てる（藤野）
- ・「生き生きと種まき活動」（安藤）
- ・「農地と山林を活かす」（伊与田）
- ・「企業の存続」共存共栄していきたい（鈴木）
- ・「華蘇活動」マイナス思考でなく華やかに蘇る。計画の進行管理が大切。(芳紀)
- ・「元気な種まき Yes We Can CSA (Community Supported Agriculture)」(林)
- ・「明るく楽しくつながる地域」（近藤）
- ・「家族と仲間を大切に」（里乃）
- ・「先祖からの贈り物」（芳文）
- ・「仲間との絆を大切にしていく」（有佑）
- ・「人と人とのコラボで力強いまちづくり」（吉田）
- ・「結」この5ヶ月でいちばん印象に残っている（松尾）

4 コーディネーターまとめ

- ・「結」で締めくくってくれた。都市では便利さを追求しすぎ、希薄な人間関係から孤独死などの問題があるが、農村には「結」の心と底力が残っている。

5 オブザーバーからのひとこと

- ・非常に勇気をいただいた。敷島地区の自慢、新しい価値の創造。支所も一緒に取り組みたい。(塚本)
- ・若者プロジェクト、旭地区が旧町村で最も過疎化、高齢化が進んでいたから。市長から、このプロジェクトにあたり、「地域のがんばりを引き出せ」との指示を受けている。豊田市は合併以後1万6千人人口が増加した。しかし旧町村部は千8百人減少している。ただ、市民アンケートの結果、7.5%の人がより自然豊かなところに住みたいと答えた。ここに期待していきたい。(天野)



堂々と発言する中学生安藤有佑君（加塩町）



傍聴者100名以上で満席となった会場

資料 ときめきプランへの意見

しきしまときめきプランの策定にあたり、プランをより身近なものにしていただくため、素案概要版を全戸配布し、約1ヶ月間にわたり意見募集を行いました。

この結果、地域内15名、地域外6名、合計21名の方から貴重なご意見をいただくことができました。

これらのご意見は、公開討論会での発言と合わせ、プロジェクトチームで分析、検討し、プランに反映させていただきました。

● 募集期間／1月16日（土）～2月20日（土）

● 設置場所／敷島会館玄関ホール



1 ご意見の分類

計画に賛成するもの	計画内容の補強、推進方策に関するもの	9 件
	地域づくりに向けた提案、アイデア	6 件
	激励、期待のご意見、感想	6 件
計画に反対、批判するもの		0 件

2 ご意見の概要（主な意見）

分 類	意見概要
計画内容の補強、推進方策に関するもの	・各分野の精通者が多い、これらの有能な人材の活用 ・バランスの良い世代分布が重要、そのための産業おこし、特に農業分野の特産品プロジェクトに期待する ・外に出ようとする若者を引きとめてはいけない、外に出てふるさとの良さを発見できることもある ・地域のことを地域で考える良いモデル、計画を住民一人ひとりのものにすることが重要 ・しきしま単独でなく、他地区と連携した、大消費地をターゲットとした取組みが必要 ・人口増加ばかりに気を取られるのではなく、生活や文化などの質の向上を目指せば、人は自ずと集まってくる ・地域を牽引するリーダー育成のプランも入れるべき ・全国有数の高齢者自立、健康長寿のまちをめざしては
地域づくりに向けた提案、アイデア	・就学前の子を持つ地域出身者のUターン推進対策を強化 ・小規模農家が出荷し、一定の収入が得られる営農と流通の仕組みづくりが必要 ・住民一人ひとりに、小さな行動でも、自分ができるプロジェクトを見つけてもらうことが大切 ・交通アクセスの向上と住宅建設対策の強化 ・営農環境、生活環境のために陰切りを推進すべき ・道路整備、携帯電話難受信地区の解消が必須
激励、期待のご意見、感想	・しきしま地区の皆さんの高い意識、自信に敬服します ・地域の連帯感を感じる、プランの成功を期待

平成22年2月3日 『朝日』

脱・過疎 住民が行動計画

豊田市の旧旭町地区にある「敷島自治区」が、住民自らの手で過疎と高齢化に歯止めをかけようと、独自に地域振興計画「しきしまときめきプラン2010」の案をまとめた。自治区の将来目標を掲げたうえで、5年以内に取り組む事業を具体的に示しており、「自治区版総合計画」ともいえる珍しい取り組み。地域行事に協力してくれる都市住民の「サポーター」を募集するなど、アイデアも満載だ。

(黄徹)

豊田・旧旭町「敷島自治区」

敷島自治区には、昨年10月の過疎対策事業「日本再発進現在で328世帯、1186人が暮らす。過疎化が進み、何の対策も取らなかった場合、10年後は955人にまで減るといふ予想もある。

そんな自治区が昨年、若者たちの転入に沸いた。豊田市

「若者たちに定住を促すには

都市から「サポーター」体験農場…

5年内の事業 満載

まず、自分たちが地元の将来像を描けていない」とこの機運が生まれた。昨年8月には、区長の近藤正臣さん(69)らの呼びかけで、有志12人がプロジェクトチームを結成。再生のための計画作りに乗り出した。

プランでは、人口減少を最

小限にとどめ、10年後でも1千人を維持する目標を掲げた。2014年までの5年間のについては、取り組むべき具体的な事業を「アクションプログラム」として示した。

まず都市住民との交流を増やすことが大切と考え、「しきしまサポーター」制度を導入する。田舎暮らしの体験希望者らに登録してもらい、楽しみながら、イベントや里山の手入れなどを手伝ってもら

う。「交流」だけでなく、「景観保全」や、高齢化で不足している「労働力」の確保

も狙った「一石三鳥」のアイデアだ。14年までに200人の登録を目指す。

「田舎をめざそうプロジェクト」と運動して、新たな事業に取り組みことも検討。「体験農場」や「農村レストラン」を設けるなどのアイデアも出ている。

一人暮らしの老人が孤独に陥らないよう、寄り合い所の「集いの家」を設ける。また、予約制の乗り合いタクシーを導入したり、街灯を増やしたりもする。

プランの案は7日に地元で開かれる公会討論会で住民に示す。その後、意見を求めた上で、3月上旬の自治区総会で正式決定する方針。

区長の近藤さんは「地域の魅力を高め、今住んでいる人からも、都市の住民からも『住みたい』と思われる町をつくらなければならない」と話している。

過疎化ストップに独自計画

ま
ち
に
人
気
を

遊休農地活用や交流を

豊田市の山間部、旭地区敷島自治区

豊田市の山間部、旭地区敷島自治区の住民が「過疎化ストップ」を掲げて住民独自で地域振興計画「しきしまときめきプラン2010」の素案を作った。さらに議論を深めようと7日に敷島会館ホールで公開討論会を開いた。討論会での意見を反映させ、3月7日の自治区総会でプランを正式に決める。

【中島幸男】

敷島地区は市中心部から約30分で約8割が森林。09年10月1日現在の人口は1186人で、このままでは10年後には1000人を下回りそう

だ。一方、市が昨年始めた過疎対策事業「若者よ田舎をめざそうプロジェクト」で若者

000人で食い止める目標を

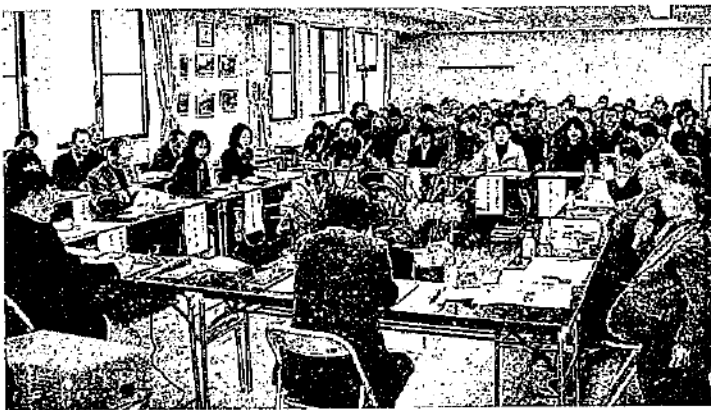
素案では10年後の人口を1000人とするよう

△1人暮らしの高齢者を支える」としてつまもの出荷に
る「集いの家」の整備▽農村
レストランの開設―などを
計画している。
討論会には住民100人以
上に参加。チーム関係者は
じめ地区の事業所代表、中学
生、プロジェクトで移住した
若者ら13人が発
言した。「人を
中心にした触れ
合いのイベント
を」「農山村に
住むことがステ
ータスとなるよ
うな新しい価値

近藤区長は「これから先が
勝負。この日示された皆さん
の熱い思いや計画を一つ一つ
実行していきたい」と話す。

設定。今後5年間に▽イベン
トなどに協力してもらう都市
住民を「しきしまサポーター」
として登録▽遊休農地を貸し
出す「週末ファーム」の実施
観を創造した
い」などの声
出たほか「働く
場所の確保が過
疎防止につなが

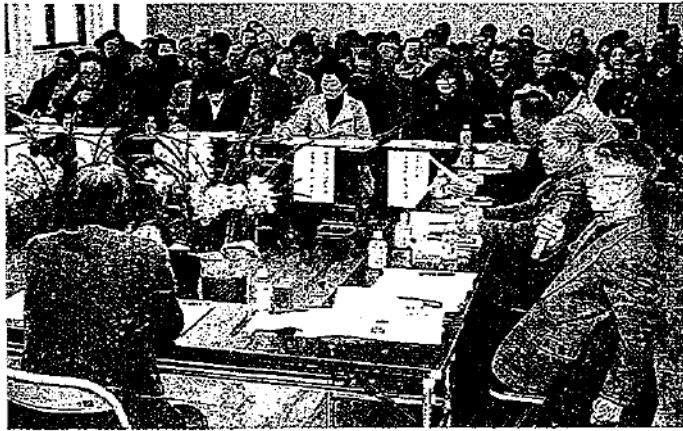
来月7日立案



「過疎化ストップ」に向けて熱心な討論が
交わされた―豊田市の敷島会館ホールで

敷島自治区の将来像は

豊田・旭
過疎テーマ、公開討論



過疎地域の活性化に意見を述べるパネ
リスト＝豊田市杉本町の敷島会館で

豊田市旭地区にある「などの将来像を語る」などの将来像を語る。敷島自治区が七日、同市杉本町の敷島会館で過疎化をテーマにした公開討論会を開いた。住民らは「山間地の良さを発信し、全国の注目を集めるようにす

る」などの将来像を語る。

同自治区は、過疎が進む中山間地域にあり人口は千二百人弱。過疎化を食い止めようとして、十年後に人口が千人を下回らないこと

や、都市から自治区に交流体験に訪れる人を年間千人にするなど具体的な数値目標を定めた計画を策定中。討論会で、計画に対する住民らの意見を聞いた。

区内の各年代の代表や、市の過疎化事業で同区に住み農業をする若者ら十二人のパネリストからは「世代を超えたふれあい、敷島にいて良かったと思えるようにする」「人と人のつながりを大切に」「貞観杉など景観も大事にしたい」などの意見が出た。

自治区は、討論会に出た意見を踏まえ、三月七日の総会に計画を提示する予定。討論会には、区内外の百人以上が訪れ、耳を傾けた。
(杉山直之)

都市・農山村の共生モデル目指す

ストップ過疎

豊田市旭地区 敷島自治区で公開討論会

豊田市旭地区の敷島自治区（近藤正臣区長・10町1186人）が7日、地元の敷島会館で「過疎化ストップへの挑戦！いま私たちができること」と題した公開討論会を開催した。討論参加者と聴衆あわせて約1000人が集まり、地域づくりへの住民意識が高まっていることを感じさせた。



老若男女13人が意見を交換。山村のこうした会には珍しく約1000人の人が集まった

空き家に定住させ、耕作放棄地で農業に挑戦してもらう「日本再発信」若者よ田舎をめざそうプロジェクトを出てきており、住民の66%が都市からの移住を歓迎している。

同自治区では今春から、過疎化による活力低下を防ぐ目的で、全住民で将来像を共有しながら進める地域計画「しきしまときめきプラン」をスタートさせる。

これは、都市・農山村の共生や新産業の創出を図りながら、多少不便でも子供やお年寄りが安心して暮らせる生活環境・自然環境を創って行くことというものだ。

5年後の目標も立てて本気で進めようとしている。

今回の公開討論会は、この地域計画の案案への意見を聞くために企画されたもので、中学生からお年寄りまで、地元住民から都市

住民までの幅広い13人が意見を交換した。

自治区の産業部長として参加した林崎さんは「過疎化対策の成功例は働ける場を創った所ばかりです。特産品による新産業の創出を通して働く場をつくりたい。いま会員約30名で週1回の研修を行っています。なんとか100億円を売り上げる新産業をおこしたい」と、新しい産業創出への思いを語った。

青年代表として参加した後藤芳文さんは森林組合に勤める人。山林の境界を決める仕事で若いあと継ぎ世代にも会う経験から「山の整備をして自然環境が良くなれば、山村の魅力は見直されるかも知れません」と語っていた。

に住み始めた松尾裕次さんは「農山村に住むことがステータスと思ってるよう、新しい価値観を創出したい。まず僕達が成功しないといけません」と語っていた。

【新見克也】

豊田市予算①

『どうなる農山村地域』

農山村地域に働く場所を確保して、少しでも人に住んでもらう。豊田市の二〇一〇年度当初予算案に、人口が減り続ける農山村地域を元気づけようとするさまざまな事業が、盛り込まれている。各部署が定住や雇用、産業などで連携。合併後に千五百人以上も人口が減った地域の活力を取り戻す。

市内の商工業を担当する産業部。農山村地域で雇用を守る中小企業に対して、支援する事業が目玉だ。各地区の商工会を通じて調べると、合併から四年間で廃業した事業所は百八十一社もあった。経営不振が百十三社、残りは経営者の高齢化などが理由だった。

新たに一年以上働く従業員を増やした企業には、一人当たり二十五万円の奨励金を交付する。退職者などを補充するため、従業員を新たに一

定住や雇用 後押し



【農山村地域関係の主な事業と予算額】

▷定住分野	
農山村などの定住奨励金の交付	5200万円
小原、足助両地区の分譲宅地整備	3381万円
空き家活用	800万円
▷雇用分野	
農山村地域の中小企業雇用奨励	594万円
▷産業分野	
耕作放棄地の解消対策	200万円
地域資源を活用した産業育成	5602万円
▷観光分野	
三州足助公社などの出資法人強化	300万円
山村活性化事業「里山耕」推進	7080万円
▷地域予算分野	
農山村関係分	5499万円

収穫した野菜などを地元イベントで販売する若者たち。住民との交流も順調に進む。2009年11月29日、豊田市旭地区で

年以上雇った場合にも十五万円を交付する。

同部は「人が生活するためには、働く場所の確保が重要」と意図を説明する。

○九年度、都市の若者に農山村地域に住んでもらい、農業に取り組みプロジェクトを始めた社会部。若者が地域住民と交流し評判の良いプロジェクトの継続はもちろん、ネプロジェクトの若者たちが住

るために、従業員を新たに一

年以上雇った場合にも十五万円を交付する。事業を始める。人が住む場合は「働く場所や住む場所など

同部は「人が生活するためには、働く場所の確保が重要」と意図を説明する。都市整備部も、小原と足助と両地区で分譲宅地を整備す

○九年度、都市の若者に農山村地域に住んでもらい、農業に取り組みプロジェクトを始めた社会部。若者が地域住民と交流し評判の良いプロジェクトの継続はもちろん、ネプロジェクトの若者たちが住

るために、従業員を新たに一

(杉山直之)

ひな祭りセット 初出荷

J A あいち 豊田 しきしま 特産部会

つまもの販路拡大へ

【あいち豊田】豊田市旭地区の敷島自治区で、つまものを出荷しているJ A あいち豊田しきしま特産部会は、2月下旬の2日間、ひな祭り用の飾り物「ひなまつりセット」作りと、出荷作業をした。



丁寧にひな飾りを作る部会員ら

竹にツバキの葉やもち花

「ひなまつりセット」は、飲食店の購入が大部分のつまものを広く消費者に販売できないかと、

部会で料理以外の需要を考えて開発した。出荷しているつまものの材料で、ひな祭りにちなんだ飾り物を作り、今年から市場出荷を始めた。製作は18人の部会員が持ち寄った竹やわら、ツ

バキ、もち花などを使って作業。

太めの竹を半分に分けて、わらを詰めて丁寧にツバキの葉やもち花で飾りつけ、男女のおひなさまの人形を添えて手作りの「ひなまつりセット」を、108個完成させた。

同セットは地元市場に出荷され、3日の桃の節句に合わせて、スーパーなどの店頭に並ぶ。

同J A しきしま特産部会は、豊田市旭地区の敷島自治区が「つまもの」を特産品にしようと活動してきたグループが立ち上げた。昨年4月から同J A の部会となり現在は29人が所属。つまものは「山里の句彩」の名前で出荷している。

過疎化に危機感(豊田市敷島自治区)

あいち発 現場から

若者の声に耳 10年先見据え 具体的な目標

豊田市の中心部から車で一時間弱の山あいにある敷島自治区は、過疎や高齢化などに直面する住民の手で、自治区の将来を考へる計画「しきしまときめきプラン2010」を作った。住民が千人に満たず、このまま減り続ければ、十年後に千人を割ってしまう。そんな状況に歯止めをかける。

自治区長の近藤正臣さん(68)の発案で計画を練りだしたのは、昨年八月。市の過疎地域活性化のモデル事業で、同年九月から二年半、都会の若者十人が同地区に住み、農業に取り組むことが決まっていた。

当初は、若者たちの受け入れに戸惑いを覚えて

けよつと、具体的な目標値を掲げ、住みよい山里暮らしへの第一歩を踏み出した。

「家族が仲良くないと過疎が進む」「進学などで一度は離れてしまつけど、友達がいれば戻ってくる」

住民が自ら計画策定

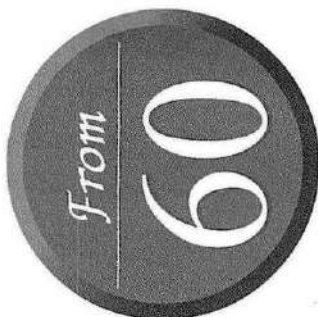


2月にあった公開討論会。地区内だけでなく、地区外からも多数傍聴に訪れ、関心の高さをうかがわせた＝豊田市敷島自治区で

いた住民たちも「若者たちの基本方針を定め、十ちに成功してほしい」と年後の人口を千人と想の思いを徐々に強くす定。農業体験などの交流る。そんな思いが計画づ人口を、現在の年二百人くりにつながった。鈴木から千人に増やすとしさんらは月一回、日曜日の夜に集まり、二時間程健康福祉や教育文化な度話し合いを進めた。ど七つの分野別計画もま計画は「過疎化ストップとめた。高齢者福祉の一プにチャレンジ」など三環では、空き家を整備

「計画は実践しないと意味がない。進ちょく状況を確認しながら進めていく」と気を引き締める。周辺六町村との大合併から五年がたとうとする豊田市。市全体の人口は合併時より一万五千人以上増える一方で、中山間地域に位置する旧町村部の「疲弊」が目立つ。そんな中、自分たちで人口減に立ち向かおうとする取り組みは、同じような問題に直面する地域にとっても、参考になるはずだ。

豊田支局・杉山直之記者



「ときめきプラン」をまとめた
近藤正臣さん (69)

愛知県豊田市の北東部の中山間地に位置する旧豊田地区。その南部を占めるのが人口約1,000人の豊田自治会だ。豊かな自然に恵まれる一方で、深刻な高齢化に直面している。だが、元小学校教員を自任する近藤正臣さん(69)の地域での活動が注目を集めている。第二の人生を自らの活動に切り結んでいる。

地区の集落施設、敬愛会館。毎週水曜日には、お年寄りらが料理教室を兼ね、食卓を囲む。野菜を採った豊田産の野菜を、お年寄りたちが育ててきた。花、アサギ、マスカット、ウダ、アサギ……。豊田産の野菜を、お年寄りたちが育ててきた。花、アサギ、マスカット、ウダ、アサギ……。豊田産の野菜を、お年寄りたちが育ててきた。

豊田市・敬愛自治会
旧豊田市の敬愛小学校の10棟落で組織されている。市中心部まで約30分、車で約1時間かかる。地域の約80%が森林。65歳以上の高齢者が50%を占める。豊田産の野菜が豊富。小規模の田舎が点在し、住民の多くが市役所、学校といった公共機関や会社に勤務する。

熟年パワ一結集



敬愛会館で、お年寄りの出陣活動に集まる様子(左)

「ときめきプラン」をまとめた近藤正臣さん(69)は、豊田市の北東部の中山間地に位置する旧豊田地区の南部を占めるのが人口約1,000人の豊田自治会だ。豊かな自然に恵まれる一方で、深刻な高齢化に直面している。だが、元小学校教員を自任する近藤正臣さん(69)の地域での活動が注目を集めている。第二の人生を自らの活動に切り結んでいる。

近藤さん(69)は、8年前から豊田市で活動している。お年寄りや、子育て世代、若年層など、幅広い世代に「豊田産の野菜」を届ける。お年寄りや、子育て世代、若年層など、幅広い世代に「豊田産の野菜」を届ける。お年寄りや、子育て世代、若年層など、幅広い世代に「豊田産の野菜」を届ける。

近藤正臣さん(69)

しきしま ときめきプラン2010

策 定 平成22年3月

発行者 豊田市敷島自治区

編 集 敷島自治区未来計画策定プロジェクト



アサギマダラ

タテハチョウ科、マダラチョウ亜科

アサギマダラは、南西諸島から海を越え1500kmの距離を飛んで毎年しきしまにやってきます。アサギマダラにとって、しきしまは第二のふるさとなのです。このチョウのような人々がもっと増えるように、未来にときめきを感じながら、みんなで素敵なまちを創りましょう。